

～富士通株式会社 HOPE LifeMark－WINCARE～

1. 導入にあたって

従来の包括業務では、相談業務については相談者の情報確認は MCWEL（高齢障害システム）を、記録は紙台帳及び MCWEL を使用、介護予防ケアマネジメントについては包括により異なった介護ソフトで管理している状況であった。

そこで各包括間、包括と高齢者福祉課、MCWEL と WINCARE が連携し、業務の効率化、情報共有の利便性の向上を図る目的で「業務を一元管理できる支援システム」を8包括共通で導入する運びとなった。

2. 準備～導入～現在までの流れ

令和元年 4月～7月	システム要件定義	各包括から選出されたプロジェクトチームメンバーで「総合相談」「介護予防ケアマネジメント」「見守り支援事業」について各業務を洗い出し、共通したフローの作成を行う。
8月～11月	運用ルールの確認 操作マニュアルの作成	業務フローを基に、WINCARE の機能と包括の実業務を照合し入力や帳票取り扱いルールをプロジェクトチームで検討。 豊島区独自の操作ルールを盛り込んだ WINCARE 操作マニュアルを作成
12月～令和 2年1月	操作研修の実施	「総合相談」「見守り支援業務」「介護予防ケアマネジメント」「給付・請求」「質問練習会」と項目を分けて、計14回実施。
2月～3月	本番環境での試用	実際のケース入力を通じて本格運用に向けたルールと運用環境の修正を実施。
4月～	本格運用開始	
4月16日	請求リハーサル	5月の初回請求に備え、各包括でファイルの作成と高齢者福祉課への提出を試行。
5月上旬	WINCARE での初回請求業務	初回請求時は FJM の訪問サポートあり。翌月以降は原則富士通のヘルプデスクにて請求業務をはじめ、WINCARE 操作に関するサポートを行っている。

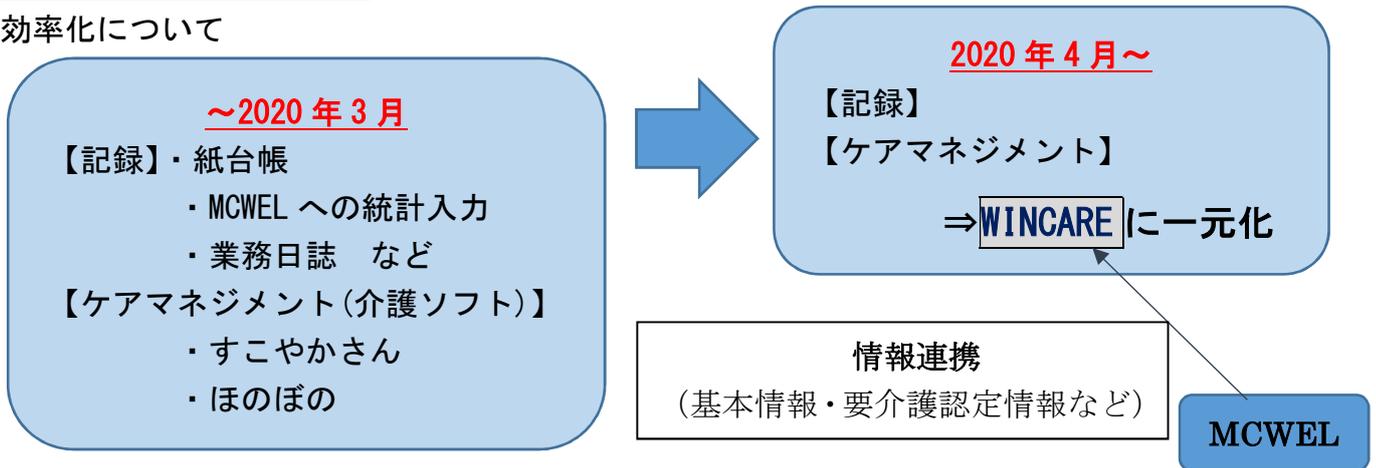
3. 導入の効果について

多忙な包括業務の中で、新しい相談入力方式や給付管理・請求などを習熟しなければならない難しさがあったが、各包括職員に積極的にご協力いただき、現在は大きな支障なく安定した運用に至っている。PT は原則月1回開催し、実運用では非効率であったルールの誤差修正の検討や操作方法の共有などを行っている。

効果については具体的に以下が挙げられる。

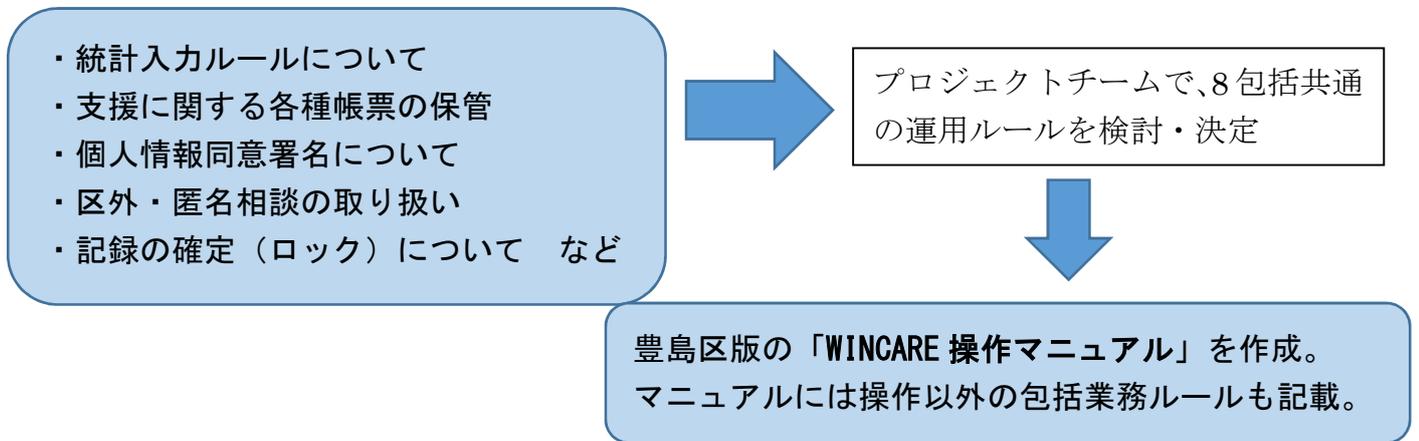
(1) 包括業務の効率化と標準化

① 効率化について

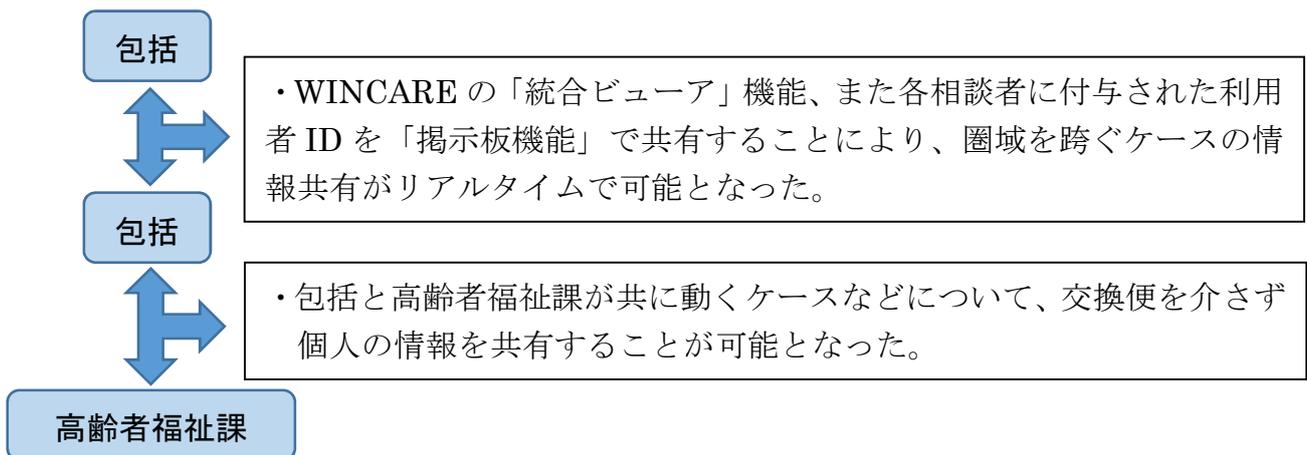


記録・管理媒体が8包括共通で WINCARE に統一され効率性が上がった。

② 標準化について



(2) 各包括間、また高齢者福祉課とのリアルタイムでの情報共有による連携強化



(3) 個人情報の安全な運用のための保護体制の強化

WINCARE 導入とともに、豊島区独自のセキュリティが強靱化された環境の中で業務の管理を一元的に行っていくことにより、今まで委託する各法人のポリシーに委ねていた個人情報の取り扱いを、区のセキュリティポリシーに則った取り扱いに統一することとなり、より個人情報の保護体制が強化された。また交換便による個人情報のやりとりが減り、情報漏洩リスクも軽減された。